芳工連だより

'16／12
第 150 号

□ 発行　芳賀町工業団地連絡協議会　□ 栃木県芳賀郡芳賀町芳賀台　98　□TEL　028(677)5033
□ http://www.hokoren.com　□ E－Mail：information@hokoren.com　□編集責任者　七井　真人

■ 部長との意見交換会

県産業労働観光部長との意見交換会を１１月２日開催しました。第１部の事業所見学は県産業労働観光部長はじめ県職員、団管連事務局長、町商工観光課長がホンダエンジニアリング(株)様を訪問させていただきました。

企業概要説明に続いて技能五輪選手養成現場及び男子ソフトボール部を見学しました。

ホンダエンジニアリング(株)様は、本田技術研究所(株)様で研究開発する製品(二輪・四輪・汎用)を具現化し、工場で量産化するための生産技術の研究・開発・設計・製造を一貫して手掛けています。具体的には、エンジン・トランスミッションなどのパワートレイン領域と、金型・溶接・塗装・組立の車体領域、燃料電池・モーター・インバーターなどの次世代領域の業務を全世界の Honda の生産拠点に展開しています。

国内に約 2600 名、海外拠点を含めると約 4100 名の従業員がいるそうです。

次に、技能五輪出場選手を指導・訓練する技能五輪ルームを案内いただきました。この部署には指導者と選手候補者 35 名が配属され、若手の技術力向上と、モラル・行動・規則の遵守などの人材育成を目的とし、抜型競技・電子組立競技・メカトロニクス競技において、世界大会優勝を目指して技を磨いています。入社後 4～5 年間は毎日技能習得・向上のための訓練を積み、その経験が各職場で活かされ、会社のポテンシャルを高める人材育成に役立っているのだと理解できました。

最後は、男子ソフトボールのパワー・スピード・テクニックをグラウンドで体感させていただきました。１０月４日に岩手国体で優勝したチームを率いる濱口監督兼投手がマウンドに立ち、バッターボックスの香川部長に剛速球を投げました。全員がボールのスピードに驚嘆していました。

第２部は、会場を管理センターに移し県産業労働観光部長ほか２名の県職員、団管連事務局長、町商工観光課長のほか、芳工連役員及び会員企業の皆様２３名の出席により意見交換会を開催しました。

河合会長は、「企業活動をする上で『安全・安心』を支える周辺環境は非常に大事な要素です。芳工連としても会員企業の意見を吸い上げ、今年度もっとも優先順位の高い５つの要望事項を県に提出しましたのでよろしくお願いします」と挨拶しました。

また、工業団地立地企業を代表して、鴻池メディカル(株)東日本事業部栃木営業所 渡部邦彦様、東洋ビューティ(株)宇都宮工場 齋藤隆則様から会社概要をご説明いただきました。

意見交換会では、県に提出した要望（以下１～５）を事務局長が説明し、県産業労働観光部長から次のように回答いただきました。１番から３番の交通関係の要望は県警察本部の所管であることから説明と回答は一括処理しました。

１　横断歩道の設置要望について

弊社の西門と外部駐車場の間に交通量の多い８メートル町道があります。既設横断歩道を利用するため歩道のない町道端を歩行することになりますので大変危険です。ついては、歩行者が安全に通行できるよう西門と外部駐車場間の町道に横断歩道を設置されるよう要望します。

２　信号機の設置要望について

ホンダ開発(株)様と日本梱包運輸倉庫(株)様の間にある２５m道路交差点は、片側２車線の南北道路の交通量が多く、東西道路から２５m道路を横断または右折しようとする場合、多くの危険（特に南進車両は交差点方面へ坂を上がるロケーションのため死角になり易い）があります。

ついては、毎年何件かの交通事故が発生していますので、懸念される重大事故発生を防止するため信号機設置を要望します。

３　交通安全対策について

宇都宮テクノ街道から芳賀工業団地の芳賀台北交差点を経て芳賀台南交差点までの幹線道路は、早朝や夜間など比較的交通量の少ない時間帯に法定速度を超えて走行する車両が目立ちます。時速６０ｋｍの法定速度で走行する一般車両や横断歩行者にとって危険な状況も見受けられます。

そこで、速度厳守するよう注意する標識や路面標示等による注意喚起とともにスピード取り締まりなどの交通安全対策を早急にお願いいたします。

【香川部長からの１～３に対する回答】

道路管理者の権限が決まっていて県・市町と別れているが、県民の皆様方が安全に通勤できる環境の確保について考えなければなりません。

県警に対して一番多い要望は信号機設置であるが、設置すると撤去できないので、一定路線全体の渋滞を考慮しなければなりません。

これまでも信号機設置要望等について県警本部に要望し成果は出ていますので、横断歩道や信号機の設置について引き続き県警本部に対し確りと要望するようにしたいと考えています。

また、栃木県の交通事故発生件数は全国ワースト 10 に入るので、交通安全についても継続して対応してもらいます。夜間の交通マナーの悪さは道路管理者のご理解をいただいて対応してもらう必要があります。

４　LRT 事業に係る国道４号と新４号国道間の交通渋滞対策について

LRT 導入でＪＲ宇都宮駅東口と国道４号間は、東行きは３車線から２車線に減少、西行きも３車線が２車線に減少すると伺っています。また、国道４号と新４号国道間は、東行きは現状どおり車道２車線であるが、西行きは２車線が１車線に減少すると伺っています。

現状の交通量や渋滞状況を踏まえ、車線減少による混雑を懸念しているのですが、主要地方道宇都宮・向田線（鬼怒通り）の道路管理者である栃木県として、車線減少による交通渋滞回避、さら

に交通安全の確保見通しについて、どのような考え方をお持ちかお伺いいたします。

【香川部長の回答】

人口 50 万人となる中核市の宇都宮は、人口 197 万人の栃木県の中で、宇都宮市周辺を含めると 4 分の 1 の人口を占める地域です。車社会にあって、宇都宮駅から東はバス以外の公共交通機関がありません。ゆいの杜も大きな人口を占め、県も LRT は必要な交通機関として考えているが、LRT によって渋滞や事故があっては最悪です。

県県土整備部を中心に民間の最新のノウハウを入れて最適化となる交通システムを検討しているので、渋滞対策と交通安全に対しては万全の方法を考えてもらうことになります。

５　鬼怒通りなど主要地方道の交通渋滞対策について

主要地方道宇都宮・向田線（鬼怒通り）は柳田大橋を跨ぐ東西部分は特に交通渋滞が常態化しています。このような交通環境にあって、冬季降雪時の道場宿交差点付近で大型トレーラー及び大型トラックが２車線道路を塞ぐ立ち往生するアクシデントが発生しました。そのため、鬼怒通りに繋がる一帯の道路でも大渋滞が発生し、予想を超える深刻なダメージを立地企業にもたらしました。

また、９月下旬に鬼怒通りで発生した交通事故でも同様に、長時間に亘り通行が出来ない状態が続き、従業員の通勤や立地企業に深刻な打撃を与えました。

ついては、鬼怒通りなど主要幹線道路における長時間の道路閉鎖が発生しないよう、栃木県における道路管理と交通規制及び交通安全を所管する関係部局が、ハード面とソフト面の両面から有効な対策をご検討くださるようお願いいたします。

【香川部長の回答】

鬼怒通りの交通渋滞については、現在整備が進められている宇都宮テクノ街道、408 号バイパスなどいろいろな形で交通渋滞の解決に向けて整備が進んでいます。

宇都宮・高根沢バイパスは、那須烏山街道から宇都宮テクノ街道まで平成２９年３月に暫定２車線で開通するので渋滞解消に役立つものと考えています。また、全体的な安全対策については県警察本部に要望しています。

時間帯が集中するので、1 度事故などがあると大渋滞が発生し企業活動に影響が出るので、道路管理者としてできることは確りと対応してもうことにします。

解決を図るために、我々も継続して経過を見守りますので、皆様にも交通安全等に関してはご協力をお願いします。

【河合会長からの発言は次のとおり】

LRT 工事期間中の迂回路として機能するよう、北は 408 号宇都宮・高根沢バイパス、南は 123 号線の道路整備を県県土整備部長へ陳情しました。県と企業側の認識に温度差があったが、陳情や意見交換会を通じてご理解をいただいたものと認識しています。

一番感じているのは、LRT で東西の人の流れを円滑化することによって、工業団地既存立地企業の規模拡大や新規立地も期待できるが、LRT をつくことが目的となって人や物の移動がスムーズに行かなければ逆効果になってしまいます。

ＢＣＰ（事業継続計画）のお話もあったが、渋滞解決の手段である LRT が渋滞を生み、渋滞によって新たな企業誘致や規模拡大ができないことなっては困ります。

県は、大所高所に立った指導をして市町との連携を進めていただきたい。企業としても最大の効果が発揮できるよう協力したいと思います。

■ 初級管理者研修会

総務企画部会が主催する初級管理者研修会を１１月９日開催したところ４社から１０名の皆さまが参加されました。

今回は、『部下をやる気にさせる上司力向上』がテーマです。

講師は研修の冒頭で、「組織力アップのためのエッセンスを持ち帰ってもらいたい」と語り、リーダーの役割、コンセンサスを得るコツ、タイプ別対応法などについて実例を交えて熱く講義しました。リーダーとして率先垂範すべき重要性も丁寧に説明されました。

受講者のアンケートに、「よいリーダーとなれる様に努力したい」、「職場環境を良くするため頑張ります」、「部下を活かすことを考えます」などの記述があり、研修での学びを実践しようとする意気込みが伝わりました。

■ ＫＹＴ基礎課程研修会

安全衛生部会が主催するＫＹＴ基礎課程研修会を１１月２５日、９社２２名の受講者を迎え一日コースで実施しました。

人間の特性として、誰でも注意力が低下し災害を起こす危険があります。このようなヒューマンエラー対策として、危険に対する感受性を高めることが求められます。また、差し呼称などにより集中力を高め、自ら進んで災害防止への意欲を向上させるために危険予知訓練（ＫＹＴ）が効果を発揮します。

講師を務めた㈱ショーワの渡邉英祐氏は、「１９１２年にアメリカでの先進事例を参考に『安全第一』が栃木県足尾銅山から叫ばれた。それ以前は生産が第一で、品質第二、安全は第三だった。１件の重傷事故があれば２９件の軽傷事故が潜み、３００件の無傷事故が隠れている、というハインリッヒの法則がある。安全は常に存在せず、常に存在するのは危険である」と、オリエンテーションで説明しました。

研修は、指差し呼称の実践から始まりました。受講者は４班に分かれ会員企業から選ばれたコーディネーターのアドバイスをいただきながら、健康問いかけＫＹＴ、チームごとＫＹＴ基礎４ラウンド法の危険要因の討論、発表を繰り返しました。

高い目的意識を持って参加されているだけに、意見を述べ、きびきびと行動する参加者の積極性が印象的でした。

アンケートには、「実践的内容が多く分かり易かったので、このままの内容で研修を継続してほしい」、「グループで色々な人とコミュニケーションが取れたので良かった」、「安全対策に関する様々な意見があり自分が全く気付かなかった事が認識

できて非常に良い経験だった」、「研修会の回数をもっと増やして欲しい」、「事故の例を交え、何故その事故が起こったか掘り下げると良いと思う」、「参考になったので職場で実践していきます」など積極的なご意見が寄せられました。

■ 環境整備部会

第２回環境整備部会を１１月２４日開催したところ１２社１２名のご出席をいただきました。

１０月の人事異動で正木尚部会長が転勤となり、後任の東洋濾紙(株)芳賀工場 半田毅様が部会長に就任され、初めて会議に臨まれました。

１１月としては異例の初雪となり、観測史上最も早い積雪と報道される生憎の天気でしたので、当日の会議前に予定していたパンジーの花植えは中止しました。

ひばりが丘公園運動場の花壇への植込みはシルバー人材センターへ委託することとし、資源ごみ回収事業の益金を委託費に充てることを決定しました。

また、安全衛生部会と合同で実施する研修会については、事務局に一任いただくことを決定しました。

資源ごみ回収は第４水曜日に実施しているが祝日となった場合、これまで繰り上げて第３水曜日としていましたが、次年度からは翌日に順延することを決定しました。

街路樹の落葉が会社敷地に入ることから自主的に落葉を回収している企業様もあり、処理方法についてご質問がありました。このような場合は直接、芳賀町建設課へご連絡いただければ回収に伺うことになっている旨のご説明をしました。

連絡事項については、事業予定として日時が決定している内容を事務局がご説明しました。

■ 芳工連全体研修会

総務企画部会が主催し１１月１１日実施した全体研修会には、１６社から２５名の皆さまに参加いただきました。この日は冷たい雨が降る生憎の天候でしたが、紅葉が見頃となりつつある群馬方面へバスで向かいました。

研修は古民家群の観光施設、歴史ある酒蔵見学、近代的洋菓子製造工場などの見学を通して地方創生や経営戦略などの学び、さらに会員相互の親睦と交流を目的として実施しました。

最初の見学地は、山深い急峻な傾斜地７０００坪に茅葺の古民家や骨董品の展示館、さらに谷底の渓流まで利用して秘湯旅館などを巧みに配置した観光施設です。

郷愁を誘う郡びたいくつもの古民家を廻りながらの散策で、古き良き時代にタイムスリップできる心憎い演出がありました。

また、上州ならではの赤城鶏、朝摘み野菜、刺身こんにゃくなど体に優しい拘り食材を使用した美味なる食事に舌鼓を打ちました。

次の研修先は、沼田市から北東にある川場村の酒蔵です。武尊山の伏流水と厳選した酒米で仕込まれる日本酒を１２０年以上造り続ける酒造会社です。川場村の交流拠点である道の駅『川場田園プラザ』とともに観光誘客に貢献している施設です。

最後の研修先は、高崎市の最南端で埼玉県境の国道１７号沿いに立地する洋菓子製造会社の工場見学です。この工場はラスクで有名なガトーフェスタハラダの最新工場です。間口１００m 余りの大理石の建物の前面に７０本の列柱が立ち並び、ギリシャ神殿をイメージする豪華な工場です。

女性スタッフが創業 110 年となる会社の歴史や製造工程について説明してくれました。この会社は和菓子製造からスタートしましたが、戦後配給パン製造を経て、その経験からフランスパン製造技術を活かしてラスクの開発をしたことを紹介してくれました。

製造する工場内は、衛生的な環境の中で工程ごとに多様なロボットが多数配備され、能率的に作業する様子を見ることができます。小麦粉、バター、グラニュー糖という極めて単純な材料のみでつくられる商品だけに、厳選された上質な材料を使用することで、食感が良く、程よい甘さのラスクに仕上げ、評判の良い商品になっているようです。

研修では、古民家を改修した宿泊施設や飲食店などを活用した観光振興による地域活性化の試みが、山深い地で先駆的に行われ、地方創生に寄与している実情を実感することができました。

洋菓子製造会社においては、絶えず評価の高いラスクのヒット新商品を生み出し直接顧客へ提供する開発力と販売力に驚きました。

一日だけの研修でしたが、初めてお会いするメンバーも沢山おいでになったことから、会社のことや各自のトピックなどを順番にご紹介いただき、和やか且つ楽しい時間を共有することができました。

この研修による学びと交流は、今後の芳工連活動の円滑な運営にも大いに役立つことと思います。

■ 真岡地区産業安全衛生大会

一般社団法人真岡労働基準協会が主催し真岡労働基準監督署が主唱する真岡地区産業安全衛生大会が１１月１５日真岡市内で開催されました。

真岡労働基準協会長 橋本修 日産自動車栃木工場長は、「人を大切に、安全を最優先に考えた企業経営が求められています。年末に向けて慌ただしい時期を迎えますが、本大会を機にいま一度労働安全対策の重要性を再確認いただき、真岡地区の災害０に向けた災害防止の取組みの強化に向け

て、皆さま方のご尽力をお願いします」と挨拶しました。

真岡労働基準監督署 手塚稔署長は、「今年も残り１カ月半となるが、管内の労働災害発生件数は増加傾向にあります。１０月末の労働災害発生件数は１２１人で昨年と比較し２３人の増となっています。死亡災害は芳賀町の解体工事現場で重機に挟まれ１件発生しています。

転倒災害は中高年の占める割合が高い傾向にあります。足腰の筋力低下が転倒災増加の要因となっています。平成２６年１１月に過労死等防止対策推進法が成立したことから、１１月を過労死等防止啓発月間として、長時間労働防止、過重労働防止活動を推進しています。

月８０時間を超える長時間勤務は、脳・心臓疾患、精神障害の発症件数が高くなる傾向があります。県内でも過労自殺の認定が増加しています。

メンタルヘルス対策については、最近の社会情勢の変化や労働災害の動向に即応し、労働者の安全と健康の確保対策のため、昨年１２月１日に労働安全衛生法が改定されストレスチェックが義務付けられています。御理解と御協力をお願いします」と挨拶しました。

第１部で表彰式があり、山王テック㈱東日本事業所様が一般社団法人真岡労働基準協会長表彰の優良事業場表彰を受けました。また、優良従業員表彰で日本梱包運輸倉庫㈱様から菊池紀夫様、五月女裕次郎様の２名、㈱本田技術研究所四輪 R&D センター様から熊谷信治様、石原康臣様、谷田公二様の３名が受賞しました。

第２部の特別講演は、シドニーオリンピック女子ソフトボール銀メダリストの石川多映子氏が「ソフトボールと私」と題してソフトボールの体験談を披露しました。

■ 芳賀町商工会との交流会

芳賀町商工会と芳工連の会員が一堂に会し、地域経済の振興と相互の発展に寄与することを目的とした交流会を１１月２９日開催しました。恒例となっている芳賀町商工会様との交流会には総数で４３名（来賓４名、商工会１９名、芳工連２０名）の皆さまに参加いただきました。

第１部の企業見学は、㈱リブドゥコーポレーション栃木芳賀工場様の工場見学を上田工場長さんのご理解とご協力で実現できました。

昭和 40 年創業の当社は、日本で初めて粉砕パルプを大人用紙おむつに採用したほか、世界で初めてポリウレタン・スパンデックス糸をギャザー素材に使用するなど、業界のリーディングカンパニーとして評価されています。敷地 116,602 ㎡、建物 37,065 ㎡の芳賀工場は平成 18 年４月に開設され、現在 96 名（男 90 名、女６名）の社員が勤務しています。地元雇用にも積極的で毎年地元高校卒業生を採用し、社員の平均年齢が若いことも特徴です。近年は大人用紙おむつのほか医療用の手術キット製造などメディカル部門も業績を伸ばしているそうです。

株式会社リブドゥコーポレーション様の繁栄を支える工場として、東日本の生産拠点である芳賀工場が一層躍進することを期待したいと思います。

その後、ホンダエンジニアリング㈱様のグラウンドにお邪魔し、商工会メンバー代表者がバッターボックスに立って、男子ソフトボール東日本リーグで優勝した濱口辰也監督兼投手の剛速球を体感いただきました。

第２部の懇親会は工業団地管理センターに移動して開催しました。主催者両会長の挨拶に続いて見目匡芳賀町長、増渕さつき町議会議長の祝辞をいただき、芳工連苅部眞一理事の乾杯発声で懇親会が始まりました。

商工会と芳工連それぞれの会員は初対面のメンバーが多く、名刺交換から和やかな雰囲気で会話を楽しみ有意義な懇談が出来ました。

■ お知らせコーナー

（１）工業団地立地企業景気動向調査について（お願い）

芳工連では会員企業様を対象とした景気動向調査を１２月中旬に実施します。この調査結果は県産業振興施策に関する栃木県知事との意見交換会の際に資料として使用します。

各会員企業様へ別途調査票を１２月中旬に郵送しますので、必要事項をご記入の上、ファツクスで事務局へ送信くださるようお願いします。（送信先 FAX 028-677-5035）

（２）芳工連賀詞交歓会について（お知らせ）

平成２９年１月１３日（金）午後５時からホテル東日本宇都宮において、賀詞交歓会を開催します。ご案内通知は別途郵送させていただきますので、期限までにお申し込みくださるようお願いします。

（３）工業団地管理センターの休館日について（お知らせ）

芳賀町工業団地管理センターは１２月２９日（木）～１月４日（木）の７日間、年末年始の休館日となります。ご理解とご協力をお願いします。

芳工連日誌

【１１月の実績 】

２日　県産業労働観光部長との意見交換会
６日　第３５回芳賀町民祭
８日　芳賀郡市公衆衛生大会
９日　初級管理者セミナー
１１日　芳工連全体研修会
１５日　真岡地区産業安全衛生大会
１６日　資源ごみ回収日
２４日　第２回環境整備部会
２４日　町民チャリティーゴルフ大会（中止）
２５日　危険予知訓練講習会
２６日　第 53 回芳工連ゴルフ大会（中止）
２９日　芳賀町商工会との交流会

【１２月の予定 】

８日～９日　県団管連県外視察研修会
１１日～３１日　交通安全県民総ぐるみ運動
１５日　安全活動事例発表会
２０日　第４回役員会
２１日　資源ごみ回収日